出題意図

2026 年度大学院博士前期課程試験問題(第 1 回)

2025 年 7 月 19 日実施 [環境計画分野(配点 50 点)]

以下 1、2、3 の問いに答えなさい。

(解答用紙は、それぞれの設問に対して、必ず 1 枚ずつ使用すること。裏面まで使ってもよい)

1. 下記の 3 つのタームについてそれぞれ 100 字程度で簡単に説明しなさい。

(配点 15 点)

1) グリーンインフラ

グリーンインフラの言葉の意味について説明し、世界と日本で進められている実例について説明する。

・自然環境の機能

・持続可能な国土や地域づくり

・社会資本整備手法　についての解答が求められる

2) 生物多様性

基本概念の理解：生物多様性が「種・遺伝・生態系」という三つの階層で構成されることを理解させる。

環境との関わり：多様性が自然環境の安定や回復力を支える基盤であることを考えさせる。

人間社会への恩恵：食料・医薬・文化など人間の暮らしが生物多様性に依存していることを認識させる。

保全の重要性：地球規模の課題として、生物多様性の喪失防止や持続可能な利用の必要性を考察させる。

3) 生態系サービス

概念の理解：生態系サービスが自然から人間が受ける恵みや利益を指すことを理解させる。

分類の把握：供給サービス（食料・水）、調整サービス（気候・洪水防止）、文化的サービス（癒し・学び）、基盤サービス（土壌形成など）を整理させる。

人間社会との関係：日常生活や経済活動が生態系に依存していることを認識させる。

保全の必要性：サービスを持続的に享受するため、生物多様性と生態系保全の重要性を考えさせる。

2.「都市におけるビオトープ保全の意義」について 200 字程度で簡潔に論述しなさい。(配点 15 点)

生物多様性の理解：都市における生態系の保全が生物多様性維持にどのように寄与するかを考えさせる。

環境教育の視点：ビオトープが子どもや市民の学び・体験の場となる意義を理解させる。

防災・環境機能の理解：雨水調整やヒートアイランド緩和など都市環境への具体的効果を認識させる。

持続可能性の考察：自然と人間社会をつなぐ仕組みとしてのビオトープ保全の価値を多面的に捉えさせる。

上記を正確にかつ網羅的に説明することが求められる

3. 日本の風土に合った自然再生、環境計画・設計のあり方について 400 字程度で論述しなさい。(配点 20 点)

・風土とは何か説明（和辻哲郎の言説や日本における風土の考え方）

・風土について考えられた計画や設計のあり方について

・日本の歴史や風土を考えて設計された公園緑地の設計、地域計画の具体的な事例について

上記を正確にかつ網羅的に説明することが求められる